

災害時、スマホでできる減災

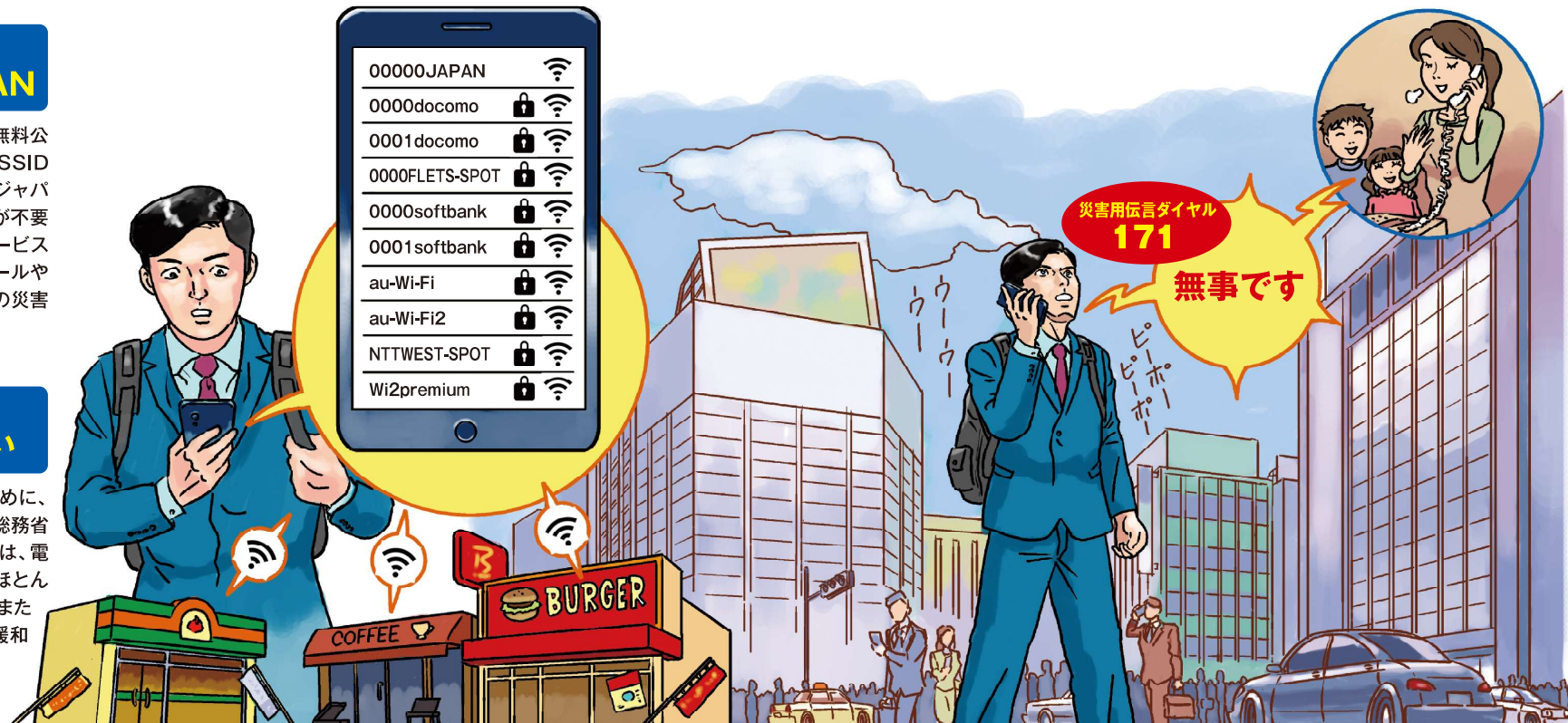
災害が発生したとき、身の安全を確保した後は、まずは家族などへの安否確認を。スマホをうまく使って情報収集しながら、危機を乗り越えましょう。

大規模災害発生時に開放される公衆無線LAN

大規模災害時の被災地で開放される無料公衆無線LANサービスが、災害用統一SSID「00000JAPAN(ファイブゼロジャパン)」。IDやパスワードの入力(認証)が不要で、通信事業者の公衆無線LANサービスが、契約者以外でも利用できます。メールやSNSでの安否確認や、WEBサイトでの災害情報の収集に役立てましょう。

発災直後は不要不急の電話をしない

被災地内の緊急電話を最優先するために、一般の電話連絡は極力避けましょう。総務省の首都直下型地震に伴う被害想定では、電話・通信会社が90%規制を実施し、ほとんどの一般電話は通話困難になります。また携帯電話も使用が制限され、規制の緩和は状況を見ながら判断されます。

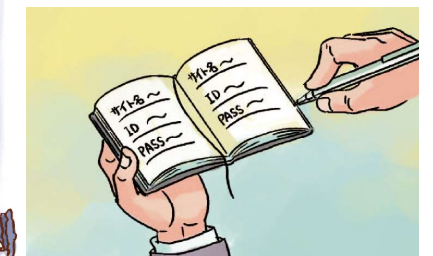


安否確認は複数の方法を準備

災害時の一般電話がつながりにくい状況下では、音声通話アプリを活用。直接通話以外ならSNSのほか、電話通信会社各社では災害用伝言サービス「171」などを提供しています(毎月1日・15日等に体験可)。

大切な電話番号、自分のID、パスワードの控えを持つ

自分のスマホが使えなくなる想定で、家族や職場の電話番号や、自分のID・パスワードをメモしておきましょう。



ネットでの情報収集は信頼できる情報かどうかを見極める

あらかじめ、国や自治体などの災害系アプリをダウンロードし、SNSでは公共機関のアカウントをフォローしておきましょう。災害時の情報収集は、SNSなど個人発信の情報を鵜呑みにせず、公共性の高い情報源で確認を。国や自治体のドメイン名には特別な決まりが。覚えておくことでセサイトに騙されるのを防げます。

- 国のWebサイトは「go.jp」が含まれます
www.kantei.go.jp(首相官邸)/www.bousai.go.jp(内閣府 防災情報のページ)/www.npa.go.jp(警察庁)
- 自治体のWebサイトは「lg.jp」が含まれます
例:www.metro.tokyo.lg.jp(東京都)/www.city.chiyoda.lg.jp(千代田区)
※一部の自治体は都道府県名.jpを使っています www.city.shibuya.tokyo.jp(渋谷区)
- 公共性の高いアプリの一例
「NHKニュース・防災」「NHKラジオらじる★らじる」「東京防災」「Yahoo!防災速報」(Yahoo!JAPAN)
携帯キャリア各社の災害対策アプリ ほか

スマホバッテリーの節約法

バッテリーを長持ちさせるコツがいくつかあります。スマホの「設定」から操作を。

- 省電力モード
低電力モード、バッテリーセーバーを有効に。
- 画面を暗く
液晶画面の明るさを読めるギリギリまで暗く。
- 通知オフ・ロック最短
最低限のSNSとメール以外の全アプリ通知オフ。自動ロック時間も最短に。
- 機内モード
「圏外」なら機内モードに。利用できるWi-FiがあればWi-Fi接続に。
- 位置情報サービスをオフに
位置情報を利用する機能は消費電力が大きいのので、オフに。



「いのちをつなぐ00000JAPAN」(無線LANビジネス推進連絡会)、「災害用伝言サービス」(総務省サイト)、「大規模災害時の非常用通信手段のあり方に関する研究会 報告書」(2016年6月総務省)、「防災手帳」(Yahoo!JAPAN)を参考にセノンで作成しました